

ドナルド・キーンと日本文学

アメリカ出身の日本文学研究者で文芸評論家の、ドナルド・キーン氏をご存知ですか？彼は日本を研究する理由について、「日本人が持っている“苦難を乗り越える力”を信じ、その力ある日本を愛しているからだ」と語っています。東日本大震災後、彼は懸命に生きる被災地の人々の姿を目にして「いまこそ私は日本人になりたい」との思いを抱き、日本国籍を取得しました。

彼が日本文学・文化の研究を志すきっかけとなったのは、18歳のとき偶然手に取った『源氏物語』でした。彼は源氏物語の世界観に魅せられ、古典から現代文学にいたるまで広く研究し、海外に紹介しました。三島由紀夫や谷崎潤一郎などの名だたる作家たちとも親交があり、彼らに関するキーン氏の著書は国内外で出版されています。当時は日本文学研究者が少なく、戦後ということもあり、日本が世界に受け入れられることは困難な時代でした。現在のように日本文学が世界中で読まれるようになったのは、彼の功績と言えるのではないのでしょうか。

また、文芸作品の研究だけでなく、戦時中に日本人捕虜の残した日記の翻訳をしていた経験から、日本人にとって日記とは何かを研究・執筆した『百代の過客』で読売文学賞、日本文学大賞を受賞しています。さらに2002年に文化功労賞、2008年には文化勲章も受賞しています。彼のことを、日本人より日本のことを理解しているという人も少なくありません。

キーン氏は、『源氏物語』の、争いなどなく美と愛のためだけに生きる様に憧れ、日本に興味をいだくようになったといいます。様々な国の文化にふれる機会が増える一方で、自国の文化や伝統にふれることは少なくなっているのかもしれない。ドナルド・キーン氏の愛する日本文学を読みつつ、日本の魅力を振り返ってみてはいかがでしょうか。



**『私が日本人になった理由
日本語に魅せられて』**
ドナルド・キーン/著
PHP 研究所
Y930.2キ

東日本大震災直後、「今こそ日本人とともに生きたい」と日本への永住を決意し、日本国籍を取得したキーン氏が、日本文学、日本人の心、日本文化の魅力語る。



**『世界の源氏物語
グローバルな視点から、
その文学と意匠の深遠を探る』**
ドナルド・キーン/ほか著
ランダムハウス講談社
2階大型 913.3ム

世界の古典としての評価が高まる源氏物語。世界文学のなかの源氏物語と、英訳者アーサー・ウェーリーについて、伝統芸道との関わりなどを紹介。一帖ごとに主要な登場人物とその出来事を解説する「源氏物語年立」も収録。

<図書館カレンダー>

※毎週**火曜日**は休館日です。

※開館時間

10:00～20:00

※**12/29(火)～2016/1/5(火)**

は年末年始のため休館します。



12月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

1月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24/31	25	26	27	28	29	30

第8回 長崎学講座 越中哲也氏講演会

「長崎ちゃんぽん・カステラ嘸～長崎・食の文化史考～」

11月1日に開催した長崎学講座では、ちゃんぽん・カステラなどを中心に長崎の豊かな食文化について越中哲也氏にお話しいただきました。鎖国時代唯一海外に開かれていた長崎。外国船の来航によってもたらされた食文化は、私たちの生活に大きな影響を及ぼしました。長崎の郷土料理や名物に、異国の食文化を取り入れたものが多いのもうなずけます。

越中先生の話はユーモアを交えた語り口ながらも、“なぜ自分がそれについて知りたいと思ったか考えてみる”ことが大事であること“物事には背景があり、それを知って初めて語ることができる”といったメッセージが込められていました。温故知新という言葉があるように、今回の講演会を通して、新たな発見やアイディアに繋がるきっかけとなれば幸いです。

親しみやすいテーマで行われた講演会で、歴史の変遷とともに変化してきた食文化を時代ごとに学ぶことができ、長崎の歴史のおもしろさや奥深さを感じていただけたのではないのでしょうか。当日は102名の方にご参加いただき、長崎の歴史・食文化への関心の高さがうかがえた講演会となりました。



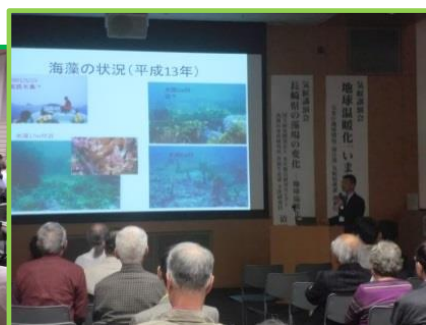
長崎地方気象台 気候講演会

「地球温暖化と海のいきものたち」

長崎市立図書館の2階フロアに環境コーナーがあるのはご存知でしょうか。近年、エネルギー問題や大気汚染などの様々な環境問題がより一層注目されており、このコーナーの資料が以前にも増して借りられるようになりました。様々な環境問題の中から、地球温暖化をテーマにした講演会を11月11日に長崎地方気象台や西海区水産研究所と共催で行いました。

温暖化はよく耳にする言葉ですが、私たちはその実情についてどれほど理解しているのでしょうか。今回の講演会は専門家をお招きし、温暖化がもたらす変化について、藻場（海藻の茂った場所）やそこに住む魚たちを例にわかりやすくお話しいただきました。地球の温度が上昇し、海の生態系が変化することは、漁業が盛んな長崎にとって大きな問題であり、私たちも身近なこととして考えていく必要があるのではないのでしょうか。

環境コーナーでは随時、テーマを変えながら展示を行っています。私たちが地球のためにできることを見つけてみませんか。



ブックボタン

テーマ

冬 休 み

2名の図書館員がテーマに沿って、おすすめの本を紹介します。

読書で楽しむ冬休み

冬休みは、年末年始を挟んで大掃除や家族の集まりなどの行事が目白押しです。何かと気ぜわしく感じますが、そんなときこそ暖かい部屋でゆっくりと心を癒してみるのはいかがでしょうか。安らぎの時間を過ごすのに、この時期にぴったりの本を2冊ご紹介します。

1冊目は、クリスマス舞台にした『34丁目の奇跡』です。ある日、マンハッタン34丁目にある百貨店のおもちゃ売り場に、1人の老人がサンタクロースとして雇われます。すると、不思議なことが次々と起こり…。サンタクロースの存在をとおして、身のまわりにあふれているたくさんのモノよりも思いやりや信じる気持ちのほうをはるかに大事であることを教えてくれる、心あたたまる物語です。

もう1冊は『箱根駅伝 世界へ駆ける夢』です。正月の風物詩ともいわれる箱根駅伝は、昨年90回の節目を迎えました。本書では、その歴史をはじめ、名監督や世界的ランナーの努力の跡、悲運なアクシデントを乗り越えた選手の不屈の歩みなどを題材に、箱根駅伝の魅力に迫っています。タスキに込められた思いやひたむきさを知れば、心地よい優しさとあたたかさに包まれるはずです。

冬休みは読書で今年1年間の疲れを癒し、新しい気持ちで新年を迎える準備の時間にしてみてはいかがでしょうか。

『34丁目の奇跡』

ヴァレンタイン デイヴィス/著 片岡しのぶ/訳
あすなろ書房
M933.7 デ



『箱根駅伝 世界へ駆ける夢』

読売新聞運動部/著
中央公論新社
H782.3 ハ



(司書: 岩下 茉莉)

クリスマスから正月へ

外は雪、家の中は暖かく家族揃って団欒、というのが小さい頃からの私の冬休みのイメージです。そんなイメージにぴったりな『ウォートンのとんだクリスマス・イブ』は、ヒキガエルの兄弟、モートンとウォートンの快適そうな土の中の家や、人間にとってはかなりのゲテモノなのにとびきりおいしそうに描かれたごちそうなどが出てくる愉快なお話です。ウォートンはスケートへ繰り出し、雪の中で遭難してしまうのですが、その先で出会うモグラやクマとのやりとりからはクリスマスの「分かち合う心」が感じられます。

『ガラスの天使』は、母親と二人貧しい暮らしを送る少女が主人公です。働き詰めで病気になってしまった母親への思いとクリスマスへの憧れに揺れる少女の心が細やかに描かれており、クリスマスの本質に気付かされるお話です。

そんなクリスマス気分浸っていたいところですが、25日を過ぎるやいなや正月準備に突入です。『日本人の一年と一生』を読んでいると、正月の本質的な意味が失われていることやクリスマスがどのように日本に取り入れられたかが分かります。クリスマスから正月へガラッと切り替わる様は、「雰囲気」を大切にする日本人らしさが表れているようで苦笑いしてしまいます。

『ウォートンのとんだクリスマス・イブ』

ラッセル E. エリクソン/作
ローレンス ディ フィオリ/絵
佐藤 涼子/訳
評論社
児童 933 エ



『ガラスの天使』

スーザン ヒル/作
野の 水生/訳
パロル舎
M933.7 ヒ



『日本人の一年と一生 変わりゆく日本人の心性』

石井 研士/著
春秋社
2階一般 386.1 イ



(司書: 岡田 典子)

寄贈紹介「長崎しにせ会文庫」

長崎市で創業し 100 年以上の業歴を有する老舗により構成される長崎しにせ会が平成 21 年 3 月、創立 50 周年記念事業の一つとして、長崎の青少年をはじめ、多くの人に幅広く世界に通用する大きな器の人間をめざし、物事の本質を考え抜く人間になっていただきたいという趣旨で、仕事に役立つ歴史・古典など先人の世間知・人間知・人生知を知るための図書 296 冊(150 万円相当)で文庫を創設されました。

その後も毎年寄贈を続けられ、今年は 30 冊(5 万円相当)の図書を寄贈していただきました。これまでに寄贈していただいた図書は 502 冊になります。



寄贈紹介「富永児童文庫」



故富永和徳様が青少年健全育成活動の一環として、読書を通して豊かで明るい人づくり社会づくりに貢献したいという趣旨で、昭和 56 年に 3,484 冊(300 万円相当)の図書で文庫を創設され、その後、平成 24 年度までの 32 年間にわたり毎年寄贈を続けられました。

平成 25 年度からはご子息の富永和照様がそのご遺志を引き継がれ、今年度も 69 冊(10 万円相当)の図書をご寄贈いただきました。これまでにいただいた図書は 7,164 冊になります。

年末年始のお知らせ

12 月 29 日(火)～1 月 5 日(火)は年末年始の休館期間となります。これに伴い、12 月 14 日(月)～12 月 28 日(月)に貸出される資料の貸出期間を 3 週間に変更します。休館中の返却は、返却ポストをご利用ください。ただし、CD・DVD・紙芝居は壊れやすいので返却ポストには入れず、開館時に返却カウンターへお返しください。

公民館、ふれあいセンター等図書室の休館日は、直接各館にお尋ねください。



予約ランキング

※ 予約が集中している本は数ヵ月お待たせすることがあります。予めご了承ください。

順位	タイトル	著者名	出版社	予約数
1	火花	又吉 直樹	文藝春秋	690
2	ラプラスの魔女	東野 圭吾	KADOKAWA	366
3	フランス人は10着しか服を持たない	ジェニファー・L.スコット	大和書房	272
3	サラバ! (上)	西 加奈子	小学館	272
5	流	東山 彰良	講談社	214

順位	タイトル	著者名	出版社	予約数
6	鹿の王 (上)	上橋 菜穂子	KADOKAWA	210
7	あの家に暮らす四人の女	三浦 しをん	中央公論新社	178
8	リバーズ	湊 かなえ	講談社	163
9	家族という病	下重 暁子	幻冬舎	162
10	教団X	中村 文則	集英社	149

(2015年11月15日現在)